

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style

[ビズスタ]

2020 12

特別版

『BizLifeStyle』は東京、名古屋、関西、
京都、仙台、福岡、広島にて49万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.03-6854-7001 FAX.03-6854-7005

企画・制作 / 株式会社デイリースポーツ案内広告社
〒110-0015 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 14F
© 2020 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



Pasha de Cartier

時代を超越する普遍的な美。カルティエ ウォッチ。

Santos de Cartier
飛行中に時計を見たい。飛行士の願いから生まれた革命。



Laziz Hamani © Cartier

Pasha de Cartier
時代を超越した不変の美。1985年の伝説が、いま、再び。



Maud Remy-Lonvis © Cartier



Laziz Hamani © Cartier

当時のオビニオンリーダーやインフルエンサーが先を争うように愛用したため成功者のステータスと認識されていたが、今回のリニューアルでは何かを成し遂げた達成者、これから成し遂げたい挑戦者がベルナとして想定されているという。前述のアンバサダーたちは、そのシンボルにあたるわけだ。経済性から社会性へ。視点のシフトには時の流れを問わずにはいられないが、驚いたことに、デザイン面はほぼ不変。細部がよりモダンかつラジエーターにラジエーションされているが、基本デザインはオビニオンに忠実なのだ。30年以上を経た現代でも見惚れてしまうのだから、カルティエの美の普遍性には改めて驚かされる。

今回のリニューアルでは、ジュエリーウォッチからスケルトンまで多彩なモデルが用意された。ラウンド型のケースとスクエア型のミッドレットバックが配された文字盤の組み合わせ、グラフィカルなダイヤル、サファイアクリスタルの裏蓋越しに視認できる進化したムーブメント、カポションカットのフルエスビネルまたはサファイアを施したカバー付きリューズなど、見どころは実に多い。

もっぴと注目したいのが、実はストラップだ。アタッチメン

トが大幅に変更され、スチール製フレットもレザー製のストラップオプションも付け替えることができる。インターチェンジャブル仕様に、ストラップは部モデルを除き2種ずつ用意されているので、公私で着替えるのも面白いだろう。

「サント」はその代表的な例と言える。1904年にも先づ新作用コレクションが発表されたが、基本デザインは誕生した1904年からの百年以上変わらぬ不変というのだから圧倒的だ。現在は「サント」の「デューモン」に加え、原点回帰の意味を込めた「サント」デューモンも展開中のコレクションは、やはりカルティエのライオンの中核に時刻を確認したいと願うフラジール飛行士の友人のために創作した時計が「サント」。懐中時計から腕時計へとというフレックスの原点となった革命的製品で、一度見たら忘れないケースと文字盤のイメージはそのままに、少しずつ進化を遂げてきた。

今回は、スケルトンモデルの新作や、珍しいオールブラックモデルなどが登場。ケースのサイズや薄さも高め、系譜を辿るとまるで四方八方へ枝を伸ばす大樹のようにも見える、正真正銘の名品。ぜひ、じっくりと味わってみたい。

腕時計の歴史を大きく塗り替えたメソンの新作

本物志向の大人を魅了する機械式腕時計には、この味わいがある。この無数の歯車が一糸乱れず仕事に励む「工学的な美」。まるでこの街のようにも見える複雑を極めた機構部は、時計本来の魅力そのものだ。

もっぴとこの美については、明確な立役者が歴史にその名を刻んでいる。腕時計の世界に「芸術としての美」を持ち込んだのは、このメソンを創り出したにほい。

宝飾工房からジュエリーそして真のミニマリストとして

腕時計の宝飾師だったルイブランワカルティエがパリの街角に工房を構えたのは1847年のこと。早々に各国王室の御用達へと昇りつめ、勢いを増して宝飾業界だけでなく時計分野へも革命の裾野を拡大する「カルティエ」の大躍進は、機構の精度を競い続けた。当時の時計師たちに衝撃を与え、時を告げる機械だった腕時計を、ジュエリーのように自由に愉しむ自己表現アイテムへと塗り替えたのだ。

ウォッチ製品は、ムーブメントと呼ばれる機構部とそれを包むケース部分を別の会社が製造していることが多い。1本の時計を開発するには、多くの場合、両者が互いの協力を仰ぎ合うことになるわけだ。カルティエは長くケースづくりを担ってきたが、その無限の探求心がデザイン分野のみに留まるはずもなく、滴を注いでムーブ



Raymond Meyer © Cartier

メントの設計へと進出。現在では時計製造の全工程を自社で完結できる数少ない真のミニマリストのひとりとして数えられている。

すでに170年余の歴史を紡いできたカルティエは、いまも「腕時計の美の最先端」にいる。毎年、多種多様な新作を発表し続けており、近年は愛好家たちが歓声をあげるようなサプライズも多い。その中心が、ここ数年にわたり市場を沸かせている往年の名作のリニューアルだ。

メソンの洗練されたスポーツウォッチ「パシャドゥカルティエ」

5人の新世代アーティストらアンバサダーに起用して世界的に話題を集める「パシャドゥカルティエ」は、硬軟自在で縦横無尽なカルティエのデザインカンの象徴とも言えるだろう。何しろこの美貌にも関わらず、実はスポーツウォッチなのだから。

市販品としてオリジナルモデルが登場したのは1985年だが、リニューアルは1943年にまで遡る。3代目当主のルイカルティエがモロッコ「マラケシュ」の太守から依頼された水泳用の防水時計が始まり。事実、「パシャ」の名は太守を指す単語なのだとか。



Vincent Wulveryck © Cartier
サントスドゥカルティエ
CRWWSA0015
47.5×39.8mm
手巻き
ステンレススティール/プレスレット
3,234,000円(税込)



© Cartier
サントスドゥカルティエ
CRWSSA0039
47.5×39.8mm
自動巻き
ステンレススティール& DLC加工
レザーストラップ、ラバーストラップ
896,500円(税込)



© Cartier
サントス デューモン
CRWWSA0032
46.6×33.9mm
手巻き
ピンクゴールド/レザーストラップ
1,808,400円(税込)



© Cartier
サントス デューモン
CRWSSA0022
43.5×31.4mm
クォーツ
ステンレススティール/レザーストラップ
451,000円(税込)



© Cartier
パシャドゥカルティエ
CRWJPA0013
35mm
自動巻き
ピンクゴールド、ダイヤモンド
プレスレット、レザーストラップ2本
4,488,000円(税込)



© Cartier
パシャドゥカルティエ
CRWGA0007
41mm
自動巻き
イエローゴールド
レザーストラップ2本
1,940,400円(税込)



© Cartier
パシャドゥカルティエ
CRWSPA0009
41mm
自動巻き
ステンレススティール
プレスレット、レザーストラップ
781,000円(税込)



© Cartier
パシャドゥカルティエ
CRWSPA0012
35mm
自動巻き
ステンレススティール
レザーストラップ2本
665,500円(税込)

Tank

時計の常識を塗り替えた、永遠のマスターピース。



Photo 2000 © Cartier
タンク アメリカン
CRWB710015
27×15.2mm
クォーツ
ホワイトゴールド、ダイヤモンド/レザーストラップ
2,032,800円(税込)



© Cartier
タンク フランセーズ
CRW4TA0008
25×20mm
クォーツ
ステンレススチール、ダイヤモンド/プレスレット
863,500円(税込)



© Cartier 2019
タンク フランセーズ
CRWGTA0029
25×20mm
クォーツ
ピンクゴールド/プレスレット
2,336,400円(税込)



Vincent Wulverlyck © Cartier
タンク ルイ カルティエ
CRW1529856
29.5×22mm
クォーツ
イエローゴールド/レザーストラップ
1,069,200円(税込)



Laziz Hamani © Cartier

まるで巨匠が指揮するクラシックの名曲か、それとも欧州の歴史的建築物か。「古びない」「色褪せない」「時代に左右されない」という意味において、カルティエは数ある欧州の名門メゾン群でも屈指の存在と言える。

そして、このページで紹介するコレクションこそは、その極致とも呼べる。名作揃いのコレクションでもひときわ眩く輝く「タンク」は、やはり百年以上前の1917年に誕生した歴史的なタイムピース。年表の上では前ページの「サントス」から少し遅れるが、懐中時計から機械式腕時計への移行に大きく貢献した作品であり、オールニュー・ヴォーからアール・デコへの進化を先導したルイ・カルティエ自身の愛用モデルを含むなど、名エピソードに彩られたカルティエウォッチの代表的な製品だ。

長い縦枠が黄金比のようにも見える独特の四角形をベースに一切の無駄を省き、ケースとラグを一体化するという画期的なデザインは、第一次世界大戦中に導入された戦車にヒントを得たとされている。そのままタンクと名付けられたこの作品は、米国のヨーロッパ派遣軍総司令官

時代に流行も関係ないと証明し続ける美のメゾン。本誌で紹介した実物は下記店舗で体感できるので、ぜひ足を運んでみていただきたい。一生味わえる美の世界に出会えるはずだ。

誌面の都合から駆け足で新作や注目のコレクションを紹介してきたが、残念ながら、この文字数では各コレクションの見どころの半分も紹介できない。なぜなら、手に取り、腕に着けて初めて伝わる感覚も、カルティエウォッチの魅力の大きな要素となるからだ。

に贈られた後、1919年に一般発売へ。平和の到来への喜びを軸に、自由で洒脱、圧倒的にエレガントなエスプリを「カルティエの美」で華麗に仕上げたタンクは即座に大人気となり、腕時計時代の隆盛とともにメソンのアイコンの一角として長く愛されることになる。

その人気に応える形で、タンクのコレクションには、さまざまなバリエーションが派生している。戦時中の着想ながら、現在はユニセックス仕様や女性向けモデルを展開中だ。上下方向のサイズを大胆に増してさらに優美さを強調したり、クォーツの新ムーブメントを採用したり、ゴールドやダイヤモンドを贅沢に使うプレスレットウォッチを追加したり...と、近年も自由奔放に美を愉しむかのような新コレクションを続々と世界に届けている。

掲載した商品の価格は令和2年11月30日時点のものです。価格や仕様は予告なしに変わることがございます。

Biz Life Style Pick up >>>

本物を知る大人たちに、もっとラグジュアリーな空間を
北陸最大級の売り場面積を誇るウォッチ&ジュエリーの名店

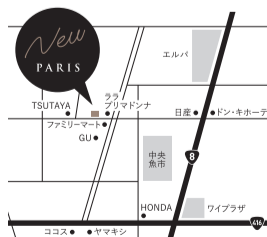


PARIS
ジュエリー パリ

ジュエリー パリ
福井県福井市高柳2-110 TEL.0776-54-8080
営業時間/11:00~19:00 火曜休

ネットでも何でも買える時代に、リアルショップを運営する意味。それは、その空間に足を踏み入れなければ味わえない特別なときめきや高揚感を提供することにある...。顧客満足への揺るぎない想いのもと、いずれも正規代理店を務める全15ブランドのウォッチコレクションを展開する「ジュエリー パリ」は、市内随一の品揃えを誇る専門店。ラグジュアリーなインテリアの中、生モノの名品との出会いをプロデュースしてくれる。

優雅な店内でも、カルティエコーナーは特に充実。本誌掲載の「パシャドゥカルティエ」など最新コレクションも続々到着中なのでぜひ手に取ってみたい。



取り扱いブランド

カルティエ・ロレックス・IWC・
タグホイヤー・フランクミュラー・
ゼニス・シャネルなど
全15ブランド

<https://www.j-paris.co.jp/>

カルティエ カスタマー サービスセンター
フリーダイヤル 0120-301-757
受付時間/11:00~19:00 無休(年末年始を除く)

www.cartier.jp